

プロジェクト紹介

割岩橋ライトアップ

～「夜空にやさしく灯る心象風景」

夜の景観を愉しんでみませんか～

水谷 智充

MIZUTANI Tomomitsu
株式会社千代田コンサルタント
社会環境事業部
景観デザイン室長



水と緑のまち・飯能市

飯能市は埼玉県の南西部、都心から約50km圏内に位置しています。北西部は山地となっており、市域の約75%を森林が占めています。南東部の台地部分には市街地が発達しています。市内には入間川、高麗川の一級河川も流れています。ハイキングや森林浴、カヌーを楽しめる豊かな自然に恵まれた水と緑のまちです。

昭和29年に市制を施行、古くは林業と織物のまちとして栄えました。現在は、良好な交通アクセスを背景に首都圏近郊の住宅都市とし

ても発展しています。一方で、緑と清流という自然に恵まれた環境と、文化・歴史を生かした観光地としての顔も持っています。平成17年4月1日に「森林文化都市」を宣言し、自然と都市機能が調和した、暮らしやすいまちづくりに取り組んでいます。

新たな観光スポットの創出

平成30年11月9日、市内の宮沢湖に、北欧のライフスタイルが体験できる施設「メッツァビレッジ」がオープンしました。市はこの事業のスタートに合わせて、平成29年度に飯能市の代表的な観光スポットで

ある飯能河原周辺に、“昼間”だけでなく“夜間”も楽しめる新たな魅力を創り出し、集客力を高め、その効果を地域経済に波及させる計画に着手しました。

西武池袋線「飯能駅」から15分程で歩いて行ける距離にある飯能河原は、バーベキューや川遊び、釣り、デイキャンプなどができる人気スポットで、市の代表的な行楽地として多くの人々で賑わいを見せています。

この人気スポットにある割岩橋^{われいわ}本体だけでなく、兩岸の樹木や河原に下る遊歩道にもライトアップを施し、河原との一体的な夜間景観の演出に向け検討を進めました。平成30年4月28日、飯能河原のシンボリック存在である割岩橋を中心としたライトアップを開始しました。本稿はこの「割岩橋ライトアップ」についてご紹介します。

割岩橋ライトアップのテーマ

割岩橋は自転車・歩行者専用橋で、周辺住民の生活道路として日常的に利用されています。飯能駅から飯能河原周辺までのアクセス橋に加え、遊歩道としての役割を持っています。この点をふまえ、ライトアップのテーマは「夜空にやさしく灯る



写真1 割岩橋と飯能河原



写真2 「日常の灯り」。飯能河原からの景観



写真3 「日常の灯り」。橋上の景観



写真4 多彩な色彩（赤色の橋を青色・緑色等で照射）



心象風景」としました。

現代的な演出重視の賑やかな光ではなく、周囲の景観に溶け込み、やさしく落ち着いた光の景観を創ることで、人々の心に刻み込まれる心象風景になることを目指しました。割岩橋は、橋の真下の河原に降りて散策できるという恵まれたロケーションにあるため、橋を下から見上げる視点や、飯能河原との関係性を活かすことに着目してライトアップを行っています。

割岩橋本体のライトアップ

「日常の灯り」と「特別な灯り」の2つのライトアップを整備しています。

「日常の灯り」としては、生活道路であることから、夜間も安心して渡れることを最優先した機能性と、

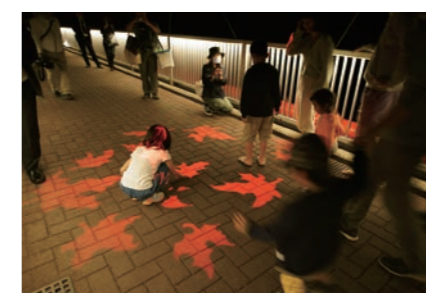


写真5 プロジェクタースポットによる投影

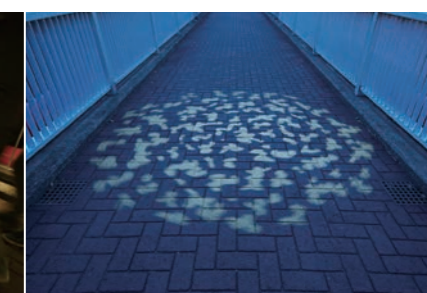


写真6 様々なイメージの投影

人々の心象風景となる美しさを両立した灯りを整備しています。

「特別な灯り」は、演出効果の高い照明器具をプログラムで制御したライトアップとしています。これには2つのタイプを用意しました。

1つ目は、橋全体を多彩な色彩で照らし出す照明です。色彩は任意に設定が可能です。

2つ目は、橋本体に取付けた、屋

外に常設可能なプロジェクタースポットによって投影する演出です。投影は「橋の歩道面」と「飯能河原」の2箇所で行うことができます。プロジェクタースポットは動画を映し出すことはできませんが、静止画（画像、ロゴ、パターン）を映し出すことが可能です。四季折々のイメージ、年間を通じて開催される各種イベントやキャンペーンに連動させたイメ



写真7 屋外用プロジェクタースポット

ージを投影できます。静止画は、任意のデザインで製作が可能です。

この屋外用のプロジェクタースポットは、静止画を用いたアニメーション機能もあり、動画の演出も可能となっています。多機能な演出用照明機具の設置により、ライトアップを継続して実施する際に、多様な夜間景観の提供を可能としています。

飯能河原への投影は、橋の下面に取り付けたプロジェクタースポットから行います。

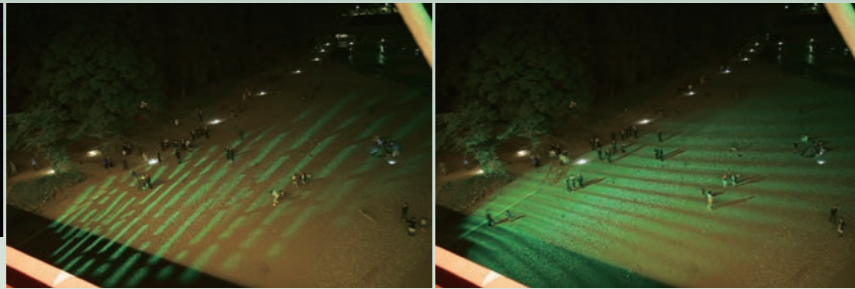


写真8 飯能河原への投影。河原が特別な空間に変化



割岩橋周辺のライトアップ

安全上必要な明るさを確保するボラード照明と、視覚的な明るさ感(安心感)を作り出し心地よい空間を演出する樹木のアップライトを組み合わせています。

割岩橋周辺は「特別な灯り」を鑑賞するポイントにもなっています。

割岩橋ライトアップの実施状況

ライトアップは、日没から午後10時まで毎日実施されています。「プロジェクタースポット」の投影は、12分間の演出を計5回(19:00 / 19:30 / 20:00 / 20:30 / 21:00)楽しむことができます。

市では、年間を通して数々のイベントを実施、四季やトレンドを取り入れた多彩なテーマでライトアップを展開しています。最新情報は、飯能市のホームページにてご確認ください。



写真9 飯能河原に続く遊歩道。安全上必要な明るさと、視覚的な明るさ感が共存

季節ごとに彩られた非日常的な空間で、自分だけの鑑賞ポイントを探しながら、ご自身もライトアップの演出の中に入り、幻想的な夜をお愉しみください。

割岩橋ライトアップからの展開

飯能市では、割岩橋ライトアップに続いて「トーベ・ヤンソンあけぼの子ども森公園」のライトアップを平成31年3月30日から実施しています。この公園は、年間約23万人



写真10 飯能河原から見た「特別な灯り」



写真11 幻想的の雰囲気を感じさせるランタン照明



写真12 曲線上の段差をライン照明の陰影で表現



写真13 童話の中の「小さな村」に足を踏み入れたような景観

もの子供達や観光客が訪れる、市を代表する観光スポットです。

北欧を代表する作家トーベ・ヤンソンの作品の世界観と公園の理念を根底に、訪れた方が北欧の雰囲気漂うライトアップを体感できるよう

「ヒュッゲ(Hygge)」を意識して演出しています。これは北欧の人々が持つ、幸福な時間の使い方や暮らし方、心の持ち方をあらゆる言葉で、基本コンセプトは、「森のすみかに灯るあかり-『豊かな闇』を感じ

表1 割岩橋ライトアップ事業の概要

発注者	飯能市観光・エコツーリズム推進課
設計	(株)千代田コンサルタント
照明デザイン	Ripple design (岡本 賢)
施工	(株)大庭電気商会
竣工	平成30年4月

る時間」となっています。
平成31年3月に発行された飯能市の『市政要覧』の表紙には、この公園のライトアップの風景が使用されています。そんな夜の景観を愉しむことができる飯能市を是非訪れて頂き、自分だけのお気に入りの「灯り」を見つけてみてはいかがでしょうか。

<参考資料>

- 1) 飯能市HP (<https://www.city.hanno.lg.jp/article/detail/2884>)
- 2) IWASAKI LIBRARY Volume 126

<写真提供>

Ripple design / Ken Okamoto